患者向医薬品ガイド

2026年2月更新

カルベジロール錠1.25mg「NIG」
カルベジロール錠2.5mg「NIG」
カルベジロール錠10mg「NIG」
カルベジロール錠20mg「NIG」

【この薬は？】

販売名	カルベジロール錠1.25mg「NIG」 Carvedilol Tablets 1.25mg	カルベジロール錠2.5mg「NIG」 Carvedilol Tablets 2.5mg	カルベジロール錠10mg「NIG」 Carvedilol Tablets 10mg	カルベジロール錠20mg「NIG」 Carvedilol Tablets 20mg
一般名	カルベジロール Carvedilol			
含有量 (1錠中)	1.25mg	2.5mg	10mg	20mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、α_1受容体遮断作用を併せもつβ遮断剤と呼ばれる薬です。

・この薬はβ受容体遮断作用による心臓の過剰な働きを抑える作用とα_1受容体遮断作用による血管拡張作用により、血圧を下げたり、心臓の機能を改善します。

・次の病気の人に処方されます。

[カルベジロール錠1.25mg「NIG」]

・次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、利尿薬、ジギタリス製剤等

の基礎治療を受けている患者
虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全

[カルベジロール錠 2.5mg「NIG」]
・次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、利尿薬、ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者
虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全
・頻脈性心房細動

[カルベジロール錠 10mg「NIG」]
・本態性高血圧症（軽症～中等症）
・腎実質性高血圧症
・狭心症
・次の状態で、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、利尿薬、ジギタリス製剤等の基礎治療を受けている患者
虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全
・頻脈性心房細動

[カルベジロール錠 20mg「NIG」]
・本態性高血圧症（軽症～中等症）
・腎実質性高血圧症
・狭心症
・頻脈性心房細動

・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〇次の人は、この薬を使用することはできません。
・気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある人
・糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスの人
・高度の徐脈（著しい洞性徐脈)、房室ブロック（Ⅱ、Ⅲ度)、洞房ブロックの人
・心原性ショックの人
・強心薬または血管拡張薬を静脈内投与する必要のある心不全の人
・非代償性の心不全の人
・肺高血圧による右心不全の人
・未治療の褐色細胞腫またはパラガングリオーマの人
・過去にカルベジロール錠「NIG」に含まれる成分で過敏症のあった人

〇次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください
・特発性低血糖症、コントロール不十分な糖尿病、絶食状態、栄養状態が不良の人
・糖尿病を合併した慢性心不全の人

・心不全を合併した頻脈性心房細動の人
・房室ブロック(Ⅰ度)の人
・徐脈の人
・末梢循環障害のある人(レイノー症候群、間欠性跛行症など)
・過度に血圧の低い人
・褐色細胞腫またはパラガングリオーマの人
・甲状腺中毒症の人
・腎臓に重篤な障害のある人
・肝臓に重篤な障害のある人
・授乳中の人
・妊婦または妊娠している可能性がある人

〇この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

[本態性高血圧症（軽症～中等症)、腎実質性高血圧症]

一回量	10～20mg
飲む回数	1日1回

[狭心症]

一回量	20mg
飲む回数	1日1回

[虚血性心疾患又は拡張型心筋症に基づく慢性心不全]

	開始時	用量調節期	維持期
一回量	1.25mg	1週間以上の間隔で、副作用のために治療が困難でないか確認し、2.5mgに増量されます。必要に応じて、その後、5mg、10mgの順に増量されます。	2.5～10mg
飲む回数	1日2回（食後）		

[頻脈性心房細動]

一回量	5mgから開始され、効果が不十分な場合は、10mg、20mgの順に増量されます。
飲む回数	1日1回

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。
気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

この薬を多く飲んでしまった場合に、重症の低血圧（ふらつき、立ちくらみ)、徐脈（息切れ、脈がとぶ)、心不全（疲れやすい、むくみ)、心原性ショック（冷汗が出る、めまい、意識の消失)、心停止（気を失う）などの症状があらわれることがあります。また、呼吸器障害、気管支痙攣（けいれん)（息がぜいぜいする、突然の息切れ)、嘔吐（おうと)、意識障害、全身の痙攣発作をきたすおそれがあります。このような症状があらわれたら、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬を長期間使用する場合は、定期的に心機能検査（脈拍、血圧、心電図、X 線など）が行われます。
・医師に相談しないでこの薬を減量したり、やめたりしないでください。病気が悪化することがあります。狭心症などの虚血性心疾患の人が使用を急に中止した場合、狭心症発作が頻発したり、症状が悪化したり、心筋梗塞を起こしたり、急に血圧が上昇する可能性があります。高齢の人においても同様の注意が必要です。また、甲状腺中毒症の人が使用を急に中止した場合、症状が悪化する可能性があります。
・手術前 48 時間は使用しないことが望ましいです。手術を受ける場合、必ずこの薬を飲んでいることを医師に伝え、医師の指示に従ってください。
・この薬を飲むと、めまい、ふらつきがあらわれることがありますので、この薬を使用中（特に使用を開始、または使用量が増えた後）は自動車の運転など危険を伴う機械の作業はしないでください。
・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。
・心不全を合併している頻脈性心房細動の治療にこの薬を使用する場合、心不全が悪化する可能性があるので、心機能検査が行われます。
・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
・授乳している人は医師に相談してください。
・重症慢性心不全の治療にこの薬を使用する場合、特に慎重な管理が必要なので、この薬の投与初期や増量時には入院して治療が行われます。本剤の投与初期及び増量時は、心不全の悪化、浮腫、体重増加、めまい、低血圧、徐脈、血糖値の変動及び腎機能の悪化が起こる可能性がありますので、このような症状があらわれたら、医師に相談してください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
高度な徐脈 こうどなじょみゃく	めまい、意識の低下、意識の消失、息切れ、脈が遅くなる、脈がとぶ、気を失う

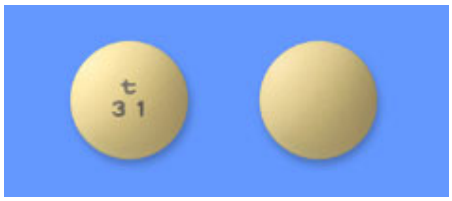
重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
完全房室ブロック かんぜんぼうしつブロック	めまい、気を失う、立ちくらみ、脈が遅くなる、息切れ
心不全 しんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
心停止 しんていし	気を失う
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、息苦しい、動悸（どうき）

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、むくみ、体重の増加、発熱、ふらつき、体がだるい、体がかゆくなる、力が入らない
頭部	めまい、意識の消失、気を失う、立ちくらみ、意識の低下
顔面	顔面蒼白
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	吐き気、唇や口内のただれ、喉のかゆみ
胸部	息切れ、息苦しい、動悸
腹部	食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、脈がとぶ、脈が遅くなる
皮膚	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る

【この薬の形は？】

販売名	カルベジロール錠 1.25mg「NIG」	カルベジロール錠 2.5mg「NIG」
PTP シート		
形状	楕円形をした割線入りフィルムコーティング錠	
長径	10.2mm	10.2mm
短径	5.1mm	5.1mm
厚さ	3.2mm	3.2mm
重さ	135.0mg	135.0mg
色	黄色	白色
識別コード	TV-CD 1.25	TV-CD 2.5

販売名	カルベジロール錠 10mg「NIG」	カルベジロール錠 20mg「NIG」
PTP シート		
形状	フィルムコーティング錠 	片面 1/2 割線入りの フィルムコーティング錠
直径	6.6mm	8.6mm
厚さ	3.7mm	3.1mm
重さ	115mg	170mg
色	黄色	白色～微黄白色
識別コード（本体コード）	t 31	t 32
識別コード（PTP シート）	t 031	t 032

【この薬に含まれているのは？】

販売名	カルベジロール錠 1.25mg「NIG」	カルベジロール錠 2.5mg「NIG」	カルベジロール錠 10mg「NIG」	カルベジロール錠 20mg「NIG」
有効成分	カルベジロール			
添加剤	カルナウバロウ、含水二酸化ケイ素、クロスカルメロースナトリウム、酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、炭酸水素ナトリウム、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、プロピレングリコール、D-マンニトール、黄色三二酸化鉄	カルナウバロウ、含水二酸化ケイ素、クロスカルメロースナトリウム、酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、炭酸水素ナトリウム、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、プロピレングリコール、D-マンニトール	酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、沈降炭酸カルシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、マクロゴール 6000、黄色三二酸化鉄	酸化チタン、ステアリン酸マグネシウム、沈降炭酸カルシウム、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、マクロゴール 6000

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。
・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

販　売　元：日医工株式会社（https://www.nichiiko.co.jp）
くすりの相談窓口の電話番号 TEL（フリーダイアル）：(0120) 039-215
受付時間：9 時～17 時（土、日、祝祭日その他当社の休業日を除く）
製造販売元：日医工岐阜工場株式会社